



さんぽ木だより

2015
夏号
vol.13

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

ことしも浜木綿の花に

浜木綿よ

お前とわたしとの

年に一度の

一期一会の

会いの愛^{かな}しさ

近より難い

お前の清さに

はげしい吐息を

今日もおくる

朝の光に

夕の光に

(真民48歳)



館長エッセイ

【第十三回】企画展「坂村真民と家族の絆」に寄せて
妻と子を思う家族の詩の中にこそ
真民の生き方の真髓がある

真民詩とわたし

前生に結ばれた縁に導かれて
木山マキ子さん

真民詩を読み解く ⑫

一家団樂の微笑ましい情景が目には浮かぶ
「飯台」

記念館からのお知らせ

平成27年度坂村真民記念館
ボランティアガイド養成講座・募集要項

企画展

「坂村真民と家族の絆」に寄せて
清らかな家族の風景を再現

【第十三回】企画展「坂村真民と家族の絆」に寄せて

妻と子を思う家族の詩の中にこそ 真民の生き方の真髓がある

坂村真民記念館では、6月6日（土）より10月18日（日）までの会期で、企画展「坂村真民と家族の絆」を開催しております。

坂村真民の詩の中でも、「純粋な家族の愛」と「純粋な人間としての生き方」を詠った初期の詩を中心に採りあげ、展示・解説します。

真民詩に出てくる坂村家の家族、妻と三人の娘たちは、本当に貧しさを貧しさと感じることなく、厳しい生活の中でも精一杯、楽しく幸せに毎日を生きています。また、「子供が一瞬見せる、純粋な姿、何気ない言葉」を、詩人としての感性で受け止め、それを詩に書きとめたもの。さらには、「一生懸命生きようとする子供たちへの優しい父親の眼」で見た「わが子の生きる姿」へのエール。こうした「家族の光景」がいっぱい盛り込まれている

のが真民詩です。

さらに、今回の企画展では、真民詩によく出てくる「三人の子」はもちろんですが、この三人の子が素直で、純粋な気持ちを持ち続け、優しい美しい娘へと成長するためになくはならない「母親」の存在に力点を置いて展示解説をします。

坂村真民が「真民らしく」生き、「真民流の生き方」を貫くことができたのも、三人の子が素直で、明るく優しい娘に育つことができたのも、この「妻・母」がいたからこそであると言えるからです。

私は、真民の晩年約10年間を家族の一員として過ごしてみても、三人の娘が父親、母親に寄せる想いをつぶさに見てきて、「この三人の娘たちは、どんなに愛情深く育てられたのだろう」と思うことがたびたびありました。特

に、母親に対する「敬慕の想い」が強いことには本当に感動しました。

坂村真民は、詩の中ではあまり妻の事を書いていませんが、真民の「思索ノート」である「詩記」のなかでは、「自分が今あることも、子供たちが素直で育ってくれたのも、お前のおかげだ」という妻への感謝の気持ちをいっぱい書いています。

坂村真民の詩には、「本当の家族の幸せ」とは何かを考えさせてくれる詩、「懐かしい家族の姿」を思い出させてくれる詩が数多くあります。東日本大震災を契機に、家族の絆、家族の温かさを、今一度見つめ直す人が多くなつてきていますが、真民詩を読むと、やっぱり家族はいいなと素直に思え、家族の絆をもう一度確かめさせてくれる気持ちになります。

坂村真民を代表する詩としては、



昭和30年（真民46歳、久代38歳、梨恵子11歳、佐代子9歳、真美子6歳）

仏教に深く根ざし、自分自身を厳しく律して、「人間としていかに生きるか」を詠った詩が数多く挙げられるかもしれませんが、私は、あえて言えば、家族を詠った詩こそが、人間としての優しさと、純粋に妻や子を想う気持ちを表現した詩として、「純粋に生きることを求め続けた」坂村真民の生き方の真髓を詠った詩であると思います。

どうぞ、皆さんも「坂村真民と家族の絆」展にお出かけくださり、それぞれの家族の絆をもう一度確かめるきっかけを掴んでくだされば幸いです。

ぜんしゅう

前生に結ばれた縁に導かれて

木山 マキ子さん(70歳)

180年余りの歴史をもつ新四国八十八ヶ所がある福岡県篠栗町。その87番札所・弘照院の
一画にある龍泉堂を守っているのが木山マキ子さんだ。若くして夫と死別、すさんだ心を
救ったのが真民詩だった。40歳を過ぎて真民さんとの交流が始まるが、2人の縁は木山さん
が誕生する以前にすでに結ばれていた。



◆小さな書店で『詩国』と出会う

4人姉妹の長女に生まれた私は、父が住職をしていた弘照院を継ぐ定めでしたが、運命に抗うように、高野山大学を中退しました。ところが、私が28歳の年、幼い2人の子を残して夫が亡くなりました。

町の小さな書店で、ひどくすさんだ気持ちだった私の目に留まったのが『詩国』でした。以前手にした小冊子に掲載の「二度とない人生だから」でお名前は知っていましたが、その本がバツと目に飛び込んできたんです。『詩国』を手に入れた私は、30代の10年間、むさぼるように読みました。そして、いつか自分の手で碑を建てたいと、



65番碑(右・昭和61年11月11日建立)と229番碑(中)。11月11日は人生の転機となった大学中退の日であり、世界平和記念日でもある。毎年碑祭りを実施

密かな願いを持つようになりました。

◆子安観音に託した母の願い

昭和59年、40歳で龍泉堂の堂守をするようになった私は、「小さいおみ堂を作りたい」で始まる真民詩「ゆめ」に出てくるようなお堂にしたいと希い、昭和61年春に先生にお便りをしました。すると、ほどなく分厚いお返事をいただいたんです。

お手紙には、私が生まれる前の驚くべきことが記されていました。子安観音で知られる弘照院に昭和14年、先生のお母様がお参りされ、先生ご夫妻に子どもを授かるように祈願されたというのです。添えられていたお母様の奉納帳には、その時すでに亡くなっていた父の字もあり、懐かしさとともに、先生のお母様とも出会えたように思いました。

◆お接待で広がる縁に

詩碑建立という私の願いは、お堂の信者さんや真民ファンの方々の支援で叶い、その後、九州朴の会の立ち上げにも加わりました。

龍泉堂でおしゃべりをする中で、少しでも元気になって帰ってほしいと願い、この間、多くの方とありがたいご縁を結んでまいりました。



篠栗で開催された第四回全国朴の会大会で(平成5年5月9日)

先生が賦算されたように、仏様のお顔と先生の詩や好きな言葉を書いたものをお堂に用意して、お遍路さんに自由に持ち帰っていただいています。

書かれた詩を読んで、「真民記念館に行ってみました」「詩を読んで救われました」などと言ってくださる方もあります。3年ほど前にNHK「小さな旅」で放映されてから、お参りの方が増えました。

今も先生に見守られていると感じて、姿勢を正すことがあります。先生と出会わなければ、私は生きてこれなかった。かけがえのないご縁をいただいたことに感謝しています。

お接待として自由に持ち帰ってもらう。木山さんの好きな詩「前から後ろから」は真民86歳の作品

一家団欒の微笑ましい情景が目に浮かぶ

「飯台」



坂村真民記念館では、6月6日から新しい企画展「坂村真民と家族の絆」を開催します。

坂村真民の詩で一番多いのは、家族を詠った詩です。貧しい生活の中で一生懸命に生きようとする家族の、切なく哀しい中にも、喜びと愛情あふれる生活を、詩として書き残しています。

今回の企画展では、こうした坂村真民の家族を詠った詩の中から代表的な詩を採りあげ、その詩の生まれた背景やその頃の家族の状況について、当時の写真や真民が書き残した「思索ノート」の言葉をまとめて説明文として展示し、「坂村家の世界」を再現しています。

今月の詩「飯台」は、そうした「家族の絆」を詠った詩として、最



昭和26年5月(この詩が作られた1年後)

も愛読されている詩です。

この詩は、真民が41歳、妻が33歳、長女梨恵子が6歳、次女佐代子が4歳、三女真美子が1歳の時の詩です。昭和26年に発行された、自費出版詩集である「三昧」に収録されています。

終戦によって、朝鮮の師範学校を辞め、郷里の熊本に引き揚げてきていた真民は、昭和21年5月に、家族を連れて三瓶町^{みかめ}の山下高等女学校の教師として、四国に渡ってきました。

昭和25年4月からは、吉田高校に転勤し、吉田で新たな生活が始まりました。そのような時に作られたのが、この詩です。

吉田での新しい生活のスタートに向けての決意と、新しい家での家

族団欒^{だんらん}の微笑ましい情景が目に浮かぶような詩ですね。本当にたった一つの飯台を買ったことが、こんなに子供たちにはうれしかったのだ、家族の幸せとは、こんなところにあるんだ、ということを感じさせてくれる詩だと思っています。今の日本で、失われようとしている、懐かしい家族の姿が、ここにはしっかりと存在していることが分かります。



この飯台(写真)は、この詩に出てくる「飯台」の実物です。今回の企画展で展示をしていますので、是非記念館で本物を見てください。直径74センチメートルの小さなものですが、当時の真民の家族にとっては、家族全員が楽しく座って食事が出来る十分な大きさでした。

吉田時代から宇和島を経て砥部に至る約30年間大切に使われてきたもので、坂村家の「家族の絆」のシンボルとして、記念館で大切に保管しています。

飯台

何もかも生活のやり直しだ
引き揚げて五年目
やつと飯台を買った
あしたの御飯はおいしいねと
よろこんでねむった子供たちよ
はや目をさまして
珍しそうに
楽しそうに

御飯もまだ出来ないのに
自分たちの座る場所を
母親にきいている
わたしから左回りして

梨恵子

佐代子

妻

真美子の順である

温かいおつゆが匂っている

おいしくかつた沢あん漬けがある

子供たちはもう箸をならべている

ああ

飯台一つ買ったことが

こうも嬉しいのか

貧しいながらも

貧しいなりに育つてゆく子の

涙ぐましいまで

いじらしいながめである

真民詩を
学びながらボランティアガイドをして
自分を成長させませんか平成27年度坂村真民記念館
ボランティアガイド養成講座・募集要項

昨年に引き続き、今年も記念館のボランティアガイド養成講座を開講します。
要項は下記のとおり。あなたもチャレンジしてみませんか。

受講無料

受講
期間平成27年
9月11日(金)～12月4日(金) [全9回]

定員

30名程度(先着順)
受講決定者には、記念館より「決定通知」をお送りします。

場所

坂村真民記念館
会議室募集
期間平成27年
7月1日(水)～9月4日(金)募集
受付

希望者は、電話かメールで申し込みください。
メールの方は、氏名、住所、年齢、性別、電話番号を
記載してお送りください。

〈電 話〉089-969-3643

〈メール〉info@shinmin-museum.jp

問い合わせ先 TEL089-969-3643(坂村真民記念館)

修了者には修了証書を授与し、28年1月からガイドとして活動していただきます。

現在30名の方が活動されています。
(30代から80代まで幅広い方々が
いらっしゃいます。)

講座を修了し、
現在ボランティアガイドとして
活躍されている方々の声

- 来館者の方から質問を受け、館長に聞いたり、自分で調べていく中で、自分が知らなかった真民さんのことが良く分るようになった。
- 来館者の方が熱心なファンで、色々教えてもらうことが何度もある。
- 来館者の方と話をすることにより、自分自身が成長することに気付いた。

講座概要・日程表

回数	日 時	講 座 内 容	講 師
1	9月11日(金) 10:00～12:00	開講式 坂村真民の生涯(1)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
2	9月18日(金) 10:00～12:00	坂村真民の生涯(2)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
3	10月2日(金) 10:00～12:00	坂村真民の人生と詩について(ビデオ鑑賞)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
4	10月9日(金) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(1) 三瓶・吉田時代	坂村真民記念館館長 西澤孝一
5	10月30日(金) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(2) 宇和島時代	坂村真民記念館館長 西澤孝一
6	11月6日(金) 10:00～12:00	真民詩の魅力とその背景(3) 砥部時代	坂村真民記念館館長 西澤孝一
7	11月13日(金) 10:00～12:00	家族にとっての坂村真民	長女 田中 梨恵子 三女 西澤 眞美子
8	11月20日(金) 10:00～12:00	記念館の特色と展示作品の解説(講義)	坂村真民記念館館長 西澤孝一
9	12月4日(金) 10:00～12:00	記念館の特色と展示作品の解説(実習) 修了式	坂村真民記念館館長 西澤孝一

「坂村真民と家族の絆」に寄せて ～坂村真民をより深く知るために①～

清らかな家族の風景を再現

期間 平成27年 6月6日(土)～10月18日(日)



坂村真民の詩で一番多いのは、家族を詠った詩です。貧しい生活の中で一生懸命に生きようとする家族の、切なく哀しい中にも、喜びと愛情あふれる日常の生活を詠った詩を、たくさん書き残しています。

今回の企画展では、こうした坂村真民の家族を詠った詩の中から代表的な詩を採りあげ、その詩の生まれた背景やその頃の家族の状況について、当時の写真やゆかりの品物、真民が書き残した「思索ノート」の言葉の中から、詩としては表現されていない「真民の心の奥にある言葉」を取り出して、パネルにまとめて分かりやすく展示し、「坂村家の世界」を再現します。

真民の3人の子どもたちを詠んだ詩は、明るく優しい

娘に育って欲しいと、すこやかな成長を願う父親の愛情に満ちあふれています。まことのまなざしでもって捉えた、子どもたちの純粋な仕草や表情は、読む者の笑みを誘います。わけでも初期の詩集「六魚庵天国」時代は、貧しくも心温まる家族の風景、清らかな親子の姿が印象的で、真民詩を広く世に出した岩野喜久代(大東出版社)さんは、清貧のなかで楽しく暮らすこの一家を、「聖家族」と呼びました。

今回は、真民が「生まれながらにして 神に愛され 仏を持つひと」と、その美質に感服した妻の存在にも焦点を当てています。この企画展を通して、かけがえのない家族の関係を、今一度、見つめてみませんか。



(右から)梨恵子、佐代子、真美子

六魚庵天国 (真民37～40歳)
悲しみを噛みしめて帰る六魚庵に
明るいあかりがともっている
煮たきの匂いがながれている
子供のこえがひびいている
山羊がしきりに呼んでいる
六魚庵はやっぱり天国だ
さみしいわたしの安息所だ

芙蓉の花 (真民48歳)
お父ちゃんお父ちゃんの
好きな
芙蓉が咲いたよ
そう真美子がいった
その声 その眼
芙蓉の美しさにそっくり
だった

三人の子に (真民42歳)

3 晴着

お前たちが
嫁ぎゆく晴れの日まで
わたしは生きているだろうか
財産もない
故郷もない
家もない

不幸なお前たちに
せめては父のこころばかりの
晴着をきかせてやりたいのだが
それまでわたしは
生きながらえているだろうか
梨恵子よ
佐代子よ
真美子よ

嫁ぎゆく日の夕べ
もしも裳裾ひく
くれないの雲が
たなびいていたら
貧しかった父の
せめてもの門出の
祝いものとして
晴れの衣を染めて
嫁いでいつてくれないか

愛は海のように (真民76歳)

愛は海のように
深く美しい
このことをわたしは
このひとを通して知った
このひとと共に生きて
五十年
沈みゆく夕日の海に
二人で立っていた

坂村真民と家族の絆展・ミニ講演会、ギャラリートークのお知らせ

開催場所／講演：記念館会議室(定員50名、先着順)
ギャラリートーク：展示室(定員50名、先着順)

講師／坂村真民記念館 西澤館長

- 6月 6日(土) ミニ講演(11:00～12:00)
ギャラリートーク(13:30～14:00)
- 6月 7日(日) ミニ講演(11:00～12:00)
ギャラリートーク(13:30～14:00)

- 7月12日(日) ミニ講演(11:00～12:00)
ギャラリートーク(13:30～14:00)
- 8月30日(日) ミニ講演(11:00～12:00)
ギャラリートーク(13:30～14:00)
- 9月23日(水) ミニ講演(11:00～12:00)
ギャラリートーク(13:30～14:00)

坂村真民記念館を応援しています



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム To-be

78居室/20㎡～24㎡(1F&2F)

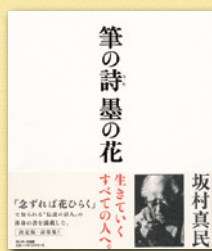


住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

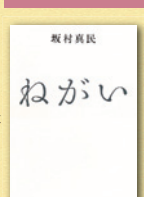
坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!



定価=本体3500円+税

筆の詩墨の花

サンマーク出版



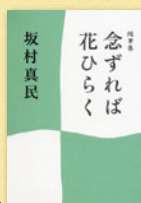
随筆集 念ずれば花ひらく
随筆集 めぐりあいのふしぎ
随筆集 愛の道しるべ

定価=本体各1800円+税

坂村真民の本

東日本大震災復興
への祈りをこめた
特別版詩集。

定価=本体950円+税



詩集 二度とない人生だから
詩集 宇宙のまなざし



定価=本体各1000円+税



刊行後16年で
10万部の
超ロングセラー!

詩集 念ずれば花ひらく

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 <http://www.sunmark.co.jp>
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

いま届けたい、生き方の道しるべ

医療法人 徳真会グループ



「医療は人なり」の診療概念をもとに患者第一主義の歯科医療グループです。
国内外39ヶ所の歯科医院を展開し、年間約80万人の治療に携わっております。

松村博史

医療法人 徳真会グループ 理事長

対談

鶴蒔靖夫

RFラジオ日本
「こんにちは! 鶴蒔靖夫です」パーソナリティー



どうする!
医療改革
日本の医療再生へのシナリオ

医療法人 徳真会グループ 理事長 松村博史の
対談本が出版されました

医療法人 徳真会グループ理事長 松村博史が RF ラジオ日本で 30 年以上に渡り放送されている「こんにちは! 鶴蒔靖夫です」のパーソナリティーを務める鶴蒔さんとの対談した内容を記した新著「対談 どうする! 医療改革～日本の医療再生へのシナリオ～」を発刊いたしました。

一般書店または amazon などでお買い求めいただけます。是非ご覧になってください。

【本書の内容】 第一章 国民皆保険制度の仕切り直しと財源確保が急務
第二章 真の医療人を育てる教育への提言
第三章 「多極化・多角化・世界が舞台」をキーワードに
第四章 時代を先取りする歯科医療プロジェクト
第五章 日本の医療の成長産業化実現に向けて

発行: IN通信社

定価: 本体1,800円(+税)

RFラジオ日本「こんにちは! 鶴蒔靖夫です」の
過去放送は徳真会グループのHPで視聴できます。

徳真会

検索

<http://www.tokushinkai.or.jp/>



坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉新しい企画展「坂村真民と家族の絆」が始まります。真民をより深く理解するためには、「真民の家族」を知ることが不可欠です。そこで今回の展示では、「家族を詠った詩」を中心に、その詩がどんな背景で生まれたのか、自身の「心のノート」である「詩記」で何を書いているのか、等を分かり易く展示・解説しています。是非お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、砥部にお出かけ下さい。(西)

タンポポだより vol.13 夏号

平成27年6月1日発行 表紙写真: 西澤孝一

発行元/坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

【坂村真民記念館】

開館時間/9～17時(入館は16時30分まで)

休館日/月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料/65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、

小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり